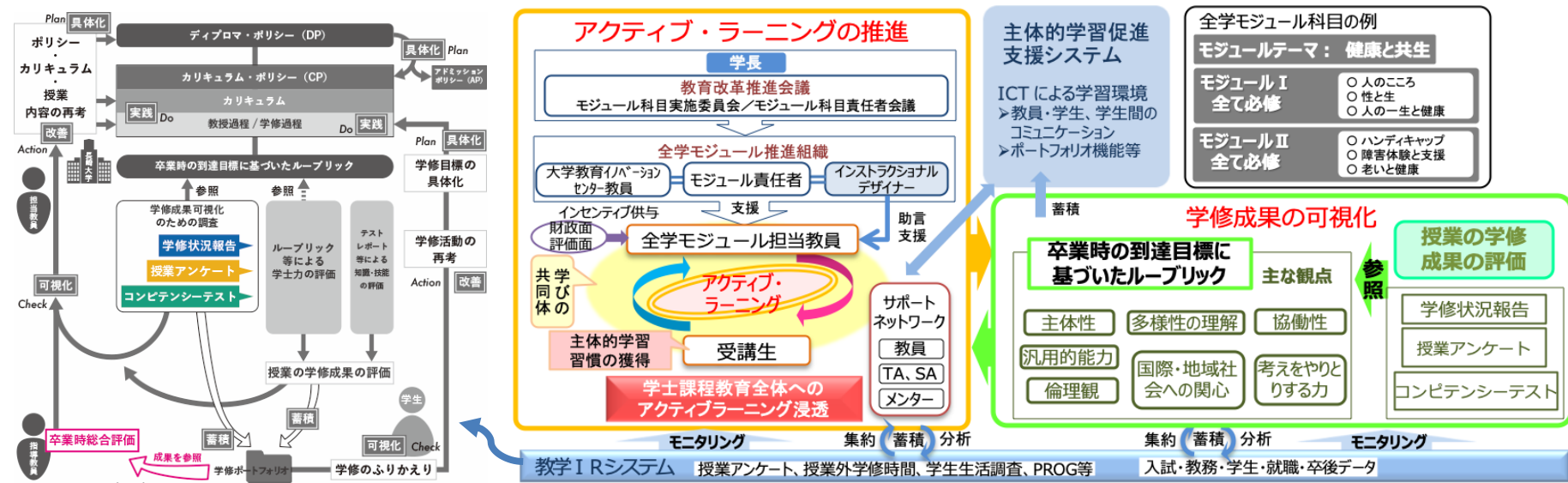


大学等名：長崎大学

テーマ：テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）・Ⅱ（学修成果の可視化）複合型

取組概要 長崎大学では、「学士力という付加価値を実感させる」教育への大胆な変革を意図して、2012年度よりモジュール方式（全学モジュール）の教養教育を導入した。モジュールとは、現代的テーマの下にパッケージ化された科目群のことであり、学生は提供されるモジュールテーマの一つを選択し、アクティブ・ラーニング（AL）を通して、本学のディプロマ・ポリシー（DP）で求められている各能力の育成を行う。モジュール方式教育の最大の特長は、1年半の間、教員と学生が学びの共同体を形成する点にあり、それは新しい学び（＝AL）を開発、進化させる絶好の環境を提供するものである。本事業では、学長直轄の推進体制のもと、全学モジュールに重点化して、効果的・効率的なALの開発・進化・普及を図るとともに、学修成果の可視化を実現することにより大学全体の学士教育改革を目指す。



【指標の推移】

| 具体的な実施計画における指標 | 平成26年度 (起点) | 令和元年度 (目標値) | 令和元年度 (実績) |
|-----------------------------|-------------|-------------|------------|
| ALを受講する学生の割合 | 100% | 100% | 100% |
| 全学モジュールのAL科目のうち、それが成功している割合 | 56.3% | 100% | 86.0% |
| 学生の授業外学修時間 | 4.8時間 | 27時間 | 12.4時間 |
| 学生1人当たりAL科目受講数 | 9.9科目 | 11.6 | 13.9 |
| ALを導入した授業科目数の割合 | 70.0% | 92.9% | 96.5% |
| 教学データの調査分析の報告件数 | 2 | 13 | 23 |

【主な成果】

- ①DPにもとづいた一貫した教学マネジメントの仕組みを構築
- ②DPに合わせた限定的な能力の測定を可能にする能力基準（ルーブリック）の開発
- ③授業アンケート、学修状況報告、学修ポートフォリオなどを「学習者の省察を促す」形式に変換
- ④授業の目的にあった形のアクティブ・ラーニング型の授業を波及
- ⑤教員の教育改善の意識・行動を確実にポジティブに変化
- ⑥より厳密な授業外学修時間の測定方法を検討
- ⑦他大学でも利用可能なラーニング・ティップス、ティーチング・ティップスを作成